

# 松島本渡線埋蔵文化財（井辺遺跡第 42 次）

## 発掘調査 現地説明会資料

平成 26 年 11 月 22 日（土） 午後 1 時 30 分～3 時  
和歌山市教育委員会  
公益財団法人 和歌山市文化スポーツ振興財団  
埋蔵文化財センター

井辺遺跡は、紀ノ川下流域南岸の和歌山平野のほぼ中央にあたる、和歌山市津秦・井辺・神前にかけて位置します。遺跡は岩橋丘陵西端部の福飯ヶ峯丘陵の北西に広がる沖積平野に立地し、南北 1 km、東西 1.1 km に広がり、標高 3.0 m の弥生時代から古墳時代の遺物散布地として周知されています。これまでの調査では、弥生時代から古墳時代の住居や井戸、お墓などが見つかると、集落のなかの様子が明らかとなり始めています。

### 1. 調査の概要

- (1) 遺跡名：井辺遺跡
- (2) 所在地：和歌山市津秦地内
- (3) 調査主体：和歌山市 建設局 道路部 街路課  
調査指導：和歌山市教育委員会 文化振興課  
調査機関：公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団 埋蔵文化財センター
- (4) 調査期間：平成 26 年 8 月 30 日～継続中
- (5) 調査面積：約 2400 m<sup>2</sup>



第 1 図 周辺の遺跡分布図

### 2. 調査の成果

調査では弥生時代後期末から古墳時代中期の集落と古墳時代前期の水田が見つかりました（第 3 図）。集落は周辺よりやや標高の高い自然堤防上にあり、その北側の低地に水田が営まれていました。集落内からは、古墳時代中期の竪穴建物と呼ばれる当時の住居が 2 軒見つかりました。竪穴建物は方形で大きさは 3.4～4.4 m あり、そのうち竪穴建物 2 には北東の壁際に煮炊きのための竈が作り付けられていました。その他に井戸や多数の土坑が見つかりました。そして集落の南北端には集落と水田域を区画する溝が北東から南西方向に掘られていました。溝の大きさは幅 1.8 m～2.5 m、深さ 0.4 m で、溝内には土器が多く廃棄されていました。

集落の北側に広がる水田は洪水による泥で覆われた後、その一部は後世の削平を受けることなく、その当時の状態で残っていました。このような水田が見つかることは、県内でもめずらしいことです。



第 2 図 井辺遺跡の古墳時代初頭の様相

水田は南北に75mの範囲に広がっており、それぞれ畦畔（畦）によって区画されていました。昨年度の調査成果と合わせると24筆程度検出しました。一筆の大きさは12～28㎡で現在の水田と比べると一筆ごとの規模は小さいものです。そしてこの水田は古墳時代前期に起きた洪水により埋没しています。

その後、平安時代になると調査地一帯は条里型地割の方向性に沿った水田開発が行われました。それにより自然堤防などの旧地形は平坦化され、現況に近い方向に区画されていったとみられます。

### 3. まとめ

これまで井辺遺跡では福飯ヶ峯丘陵裾で、集落や墓域が検出されてきました。それに対して低地部に位置する今回の調査地周辺の様相は判っておらず、湿地か水田であったのではないかと考え

られていました。それが昨年度行われた第34次調査と今回の調査により、やや標高の高い微高地が南北32m幅で北東から南東方向にのびており、そこに弥生時代後期末から集落が形成されたことが判りました。集落の北側に広がる低地には水田が営まれていました。この水田は約1700年前に起きた洪水により埋没し、微高地の集落も古墳時代後期には廃絶してしまうようです。



写真1 1区 水田



写真2 2区 溝11  
土器出土状況



写真3 2区 土坑群



写真4 2区 竪穴建物1・2

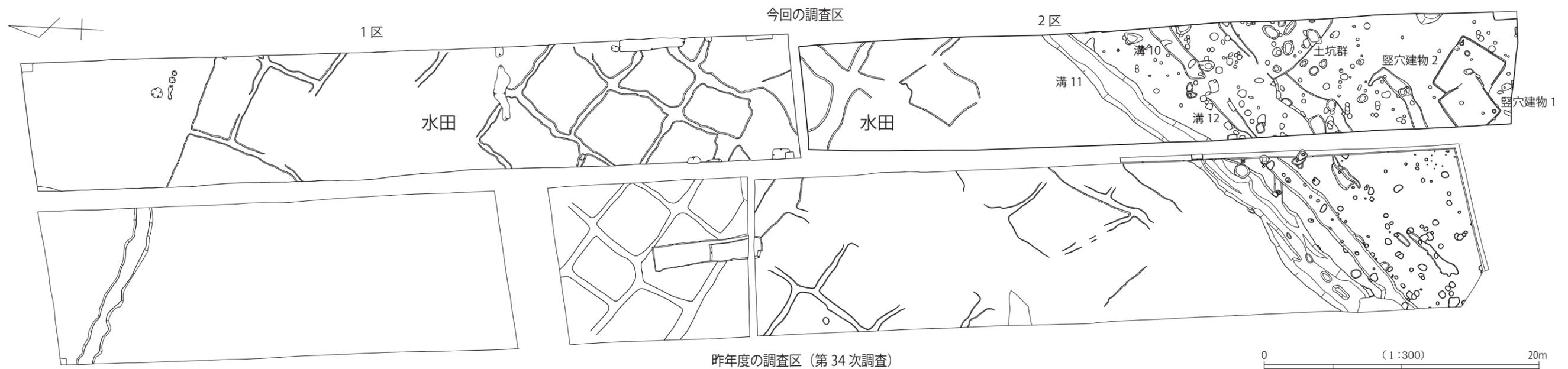


図3 1・2区 遺構平面図